

〔研究論文〕

大学期における学生のキャリア形成 —北海道、関西6大学に見る事例研究—

那須 幸雄

〔Article〕

Career Formation in the Period of University Days — Case Studies in the Typical Six Universities Located in Hokkaido and Kansai Regions —

Yukio NASU

Abstract

1. Introduction
2. Outline of Interview Survey
3. Requirements in Career Education
 - 3-1. What is Career Education?
 - 3-2. Tasks in Higher Education and Career Education Involved
4. Career Education in Research
 - 4-1. Career Center and Career Lectures in a National University Incorporation
 - 4-2. Career Center and Career Lectures in Private Universities
5. Conclusion

Prof. Yukio Nasu, Faculty of International Studies, has visited six universities' career professionals and/or career/recruit section staffs. These universities are located in Hokkaido and Kansai regions. The subject of this paper is to study how to develop and apply career education in universities and state the *modus operandi* of introducing new education system.

1. はじめに

今日、大学の学生に対するキャリア教育は、大変重要な位置を占めるようになった。大学教育におけるキャリア教育の質的充実化が進む一方では、産業界、企業では人材に対する要件が厳しくなってきた。

この研究は、代表的な先進大学におけるキャリア教育の思想・教育体系・教育内容を調査するものである。これは、国際学部共同研究「大学期における学生のキャリア形成と地域中堅企業におけるキャリア人材要件の研究」として実施された。

元々は先進大学におけるキャリア教育と産業界を代表する地域中堅企業の求めるキャリア人材の要件を明らかにして、その双方の一致点、相違点、大学が地域に求められる人材育成要件を調べるのが目的であった。ただ、地域中堅企業を調査担当した共同研究者（三木 佳光氏）が定年退職さ

れ、「国際学部紀要に投稿する権利がなくなった」（三木氏）とのことで、その調査成果の提供も拒絶され、対比することが不可能となった次第である（ここでいう地域中堅企業とは、製造業、観光業、流通業、その他サービス業を指しており、各業種で注目される企業を対象に、インタビューとアンケート調査が実施された）。

そこで、筆者の調査担当した大学のキャリア教育について、その調査結果を分析することとしたい。

2. インタビュー調査の要旨

本調査はインタビューによって実施された。大学の選択は、キャリアセンター乃至それに近い組織を備える大学を選んだ。以前に執筆した論稿「わが国大学におけるキャリア教育の現状と動向—中部、関西、九州の代表的9大学に見る事例研究—」（国際学部紀要第15巻1号）で対象とした大学は、今回の対象に含めていない。つまり、広島大学、名古屋大学、九州大学、龍谷大学、中部大学、広島修道大学、広島市立大学は、今回の訪問対象に入れていない。

- ・調査時期：2008年8月－2009年3月
- ・訪問先：（国立大学法人）北海道大学、*山口大学、*島根大学
（私立大学）札幌国際大学、関西大学、近畿大学、帝塚山大学、甲南大学、
*広島経済大学
- ・調査内容：キャリア教育の思想・教育体系・教育内容、地域社会・産業の求める人材とキャリア教育とのマッチング（文科系を中心に）、産業界との産学連携の内容、キャリア教育の革新動向

上記のうち、*印を付した大学は、三木 佳光氏が訪問しており、インタビュー内容が不明なため、今回は調査結果を記していない（資料のみ入手）。従って、筆者（那須）の担当した6大学について、そのキャリア形成について、分析することとしたい。

3. キャリア教育の必要性

3-1. キャリア教育とは

キャリア教育の必要性が言われるようになってから十年ほどが経過し、その間にキャリアデザイン学会、人材育成学会、日本インターンシップ学会などの学会が設立され、キャリア教育の研究と実践の啓発を実施してきた。

今、わが国の多くの大学で、キャリア教育が導入されて、全学的なキャリア科目、インターンシップなどの学外実習、資格取得援助が進められている。

現在の経済情勢は、米国におけるサブプライムローン危機、2008年秋のリーマン・ブラザーズ破綻からの世界的な大きな不況期にあり、完全失業率は、わが国では2009年7月の5.7%（10月現在は5.2%）に達している。米国では10月に失業率が10.2%と、1983年4月以来、26年ぶりの高水準となった。このような環境下で、大学卒業予定者の就職内定率は大幅に下降し、中には内定済みの者に対する、企業側の内定取り消しさえ発生している。

大学はこうした事態に対して、各種の対応策（就職セミナー—企業と学生の面会機会—増加、企業の学内個別セミナー開催許可、就職対策やマナー講座・合宿訓練の増加、適性検査の事前経験機

会推進、内定取り消し者の在学延長など)を取っているが、学生の就職能力の根幹は、キャリア教育の充実であろう。

学生に良い大学生活を送ってもらい、将来の人生設計(キャリアプラン)を立てて、実行してもらうためには、生き方と働き方をセットにし、大学の早い段階(1、2年生)から、その学生が大学生活に馴染み、大学サービスの活用を行ない、その学生の持てる潜在能力に目覚め、自己啓発できるようにする必要がある。

それは学生のエンプロイアビリティ(被効用能力)、コンピテンシー(パフォーマンスの向上に結びつくプロセス)を卒業までの間に、一定レベルまで強化させることで表わされる。キャリア教育を通じて、自分が何を勉強して、社会に出た時はその力(ゼネラリストとしての能力、専門的能力)を職業の場で生かしたいのか、それを通じて、どういう人生を設計したいのか、大学生活の早い段階から学生に考えさせる必要がある。

学生が入学した時に、大学に慣れるとともに、それからの学習計画を立て、将来へと繋げられるような指導を、キャリア教育では実施している。

3-2. 高等教育の課題とキャリア教育

大学の教育改革は、FD(ファカルティ・ディベロプメント)、高大連携による単位の互換制度、入試システム改革、オープン・キャンパス、オープン・ユニバーシティ(高校生などへの授業公開)、入学前教育、リメディアル(再方向付け)教育、教育の質の評価(学生の授業評価、第三者評価)、学生同士のコミュニケーション・協力活動の組織づくりなど、様々な面で取り組みが進められている。これによって、ユニークな教育体系づくりが展開されつつある。

学生の「社会人基礎力」を高め、世の中の「サービス・イノベーション」に応じた人材育成をするには、産業社会と連携を強めて、キャリア教育を充実させることが求められる。それは学生に大学生活に慣れさせると共に、自分の持つ力に開眼させて、将来への人生設計と方向づくりに結びつける効果がある。

それと並行して、学外での教育体験を行なう企画が増えており、短期留学、海外研修、提携校との交換留学、インターンシップ、ボランティア、講座型学外研修(学外研修を目的とする講座)、エコツーリズム実習、ゼミ活動での企業訪問・施設見学・インタビューと討議などが見られる。社会、或いは産業社会との連関を作り出すことが求められており、それが現実の現場の姿を伝え、学生が問題解決に加わる、という形で、教室での勉強の成果と結びつけるのが有効と考えられている。

キャリア教育は、これらの企画へと繋げられる基本的な教育効果があり、またインターンシップなど学外教育も含んでいる。キャリアセンターが中心となって、キャリア教育を進めることが多いが、これは大学の教育改革の大きな柱となっている、と言える。さらに入学後のキャリア教育と卒業が近くなってから(大学3、4年次)の就職活動をどう繋げて行くか、が重要である。

4. 調査におけるキャリア教育

今回調査した各大学において、キャリア教育にあたる機関(キャリアセンターなど)、特色あるキャリア教育科目、キャリア支援活動を設けている事例を、国立大学法人、私立大学に分けて見ることにしたい。なお以下での各大学の叙述は、順不同である。

前論稿では、2004年3月に各大学を訪問したものであったが、それから5年が経過して、大学

など高等教育におけるキャリア教育は普及し、前回の時はまだ珍しかったキャリアセンターも、多くの大学で設置されている。

4-1. キャリアセンターとキャリア科目（国立大学法人）

(1) 北海道大学（北海道札幌市）

①キャリア教育

全学教育において、次のようなキャリアに関する科目を設定している（3年次以降のキャリア教育は、各学部で実施する）。キャリア教育の担当は、高等教育機能開発総合センターとキャリアセンターである。全学部を対象に実施している（必修ではなく、選択科目）。

- ・特別講義「キャリアデザイン」（1年次第1学期・木曜日5講時）2単位
- ・特別講義「大学と社会」（1年次第2学期、金曜日5講時）2単位
- ・インターンシップA・B（夏期休暇を中心に実施）A：2単位、B：1単位

「キャリアデザイン」は2005年に開始した。高校時代に受験勉強中心で、偏差値で入ってきた人がほとんどのため、仕事については進路を考えていない（医学部を除いて）。そこで、現実の社会を知ることから開始する（学ぶこと、働くこと、その関連性を考えさせる内容となっている）。総合大学なので、色々な分野を考慮して、「関連付け」を自分で考えさせるようにしている。学外講師（社会で活躍する人）による体験談、キャリア形成についての講義、講義内容をテーマとした小グループ討論（ディスカッション）、自己分析が含まれる。特別講座は、民間企業経営者、起業家、ジャーナリストなど学外講師による講義であり、毎年5名程度を招聘している。受講者は100名程度（4%程度の受講）。

学生には予習をするよう、話している（会社について）。外部講師の話聞いた上で、小グループ（数名）に区分けして討論と発表を行なう。グループ編成の際は、各学部（文系、理系）を混ぜて（男女とも混ぜて）、職業を決めた上で、どのような能力が求められるのか、討議する。さらに必要なら自分の経費持ちで、札幌市近辺でのインタビューまで実施する場合もある。グループ討議の後は、グループ発表がある。

「大学と社会」は、北大を卒業して各分野で活躍している人（産業界、行政、医師、マスコミ等、分野と年齢でバラエティを持たせる）を10名程度、講師として招き、学生時代から現在までの体験談を講話して頂いて、大学生活のあり方、求められる資質、期待内容などを聞かせ、学生が将来のキャリアを考える材料にする、というものである。1998年に当時の総長の発案により開始された。「キャリアデザイン」との関連性は、特にはない。

1年次を中心に400～500名程度が受講しており、外部講師の話の後、質疑があり、自分の考えについてのレポート、将来のキャリア（ライフプラン）についてレポートにまとめる。ライフプランについては、学生が発表する。卒業生の推薦は、各学部から出てきており、またそれ以外にも依頼することもある。

インターンシップは、全学インターンシップと、各学部・研究科・学院で実施しているものの2つがある。後者は、各学部の専門性に基づいて行なわれる。

全学インターンは、学部・研究科・学院・学年を問わず実施するが、学部生が多くを占める。修士課程学生のインターンもある。学部は1年次から実施されるが、実際に実習するのは、3年次が多い（1年次のインターン生は多くない。2・3年次と双方している学生もいる）。80%は2週間実習のパターンである（1週間～1ヶ月のものがある）。インターンシップは、4月の履修登録でなく、

インターンが終わったところでの履修登録となっている。

一方、各学部のインターンシップは、大学院生の受講が多く、多く夏期休暇中に実施される。

②担当組織

担当組織の高等教育機能開発総合センター（96年創立）は教員8名の3部（高等教育開発研究、生涯学習研究、入学者選択研究）で構成される。キャリア教育の担当は、その機能の一部である。またキャリアセンターは事務組織となっており、教員は所属しない。各学部のキャリア組織は、学部によって異なり、担当の教員が中心となっている。学部にキャリア教育委員会はなく、また共通のインターンシップ委員会などはない。就職は、学生委員会が担当しており、その全学共通部会は設けられている。

3年次からの各学部のキャリア教育の例としては、各種のものがある（経済学部・医学部の外部講師招聘、水産学部の練習船遠洋航海など）。

北大学生の過半数は北海道以外出身のため、就職のかなり多くが道外になる。

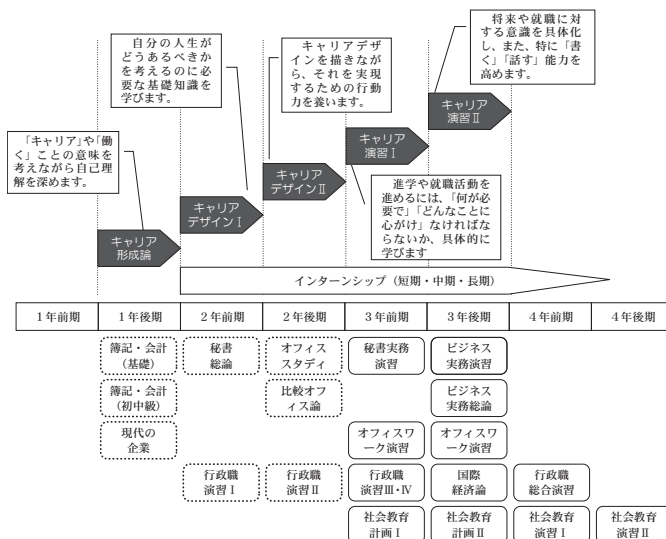
4-2. キャリアセンターとキャリア科目（私立大学）

(1) 札幌国際大学（北海道札幌市）

①キャリア教育

キャリア教育は、1年次後期のキャリア形成論、2年次のキャリアデザイン1・2、3年次のキャリア演習1・2、2年次からのインターンシップから構成されている（それぞれ2単位）。1は前期、2は後期である。3年次のキャリア演習は、就職活動を考えて具体的にになる。キャリア演習は選択科目ではあるが、実質は強制で履修させる。その他のキャリア科目は選択である。キャリア支援センターの実施するキャリア支援科目、およびキャリア開発に関する授業科目は、図1の通りである。

図1. 札幌国際大学におけるキャリア支援科目とキャリア開発科目
(2006年度生用)



(出所) 札幌国際大学「キャリアハンドブック」, 2008年3月

またキャリア支援プロジェクト特別講演会があり、各界の人々を招いて講演をしてもらっている（弁護士、放送局の人、ホテルマン、エアラインのキャビン・アテンダント、経営者など。卒業生も入る）。2007年から7回開催しており、講師は教員が選択して依頼している。これは文科省から特別補助を得て実施したもので、さらに継続することを予定している。

学生による活動としては、大学と短大を合せたプロジェクトで、学生が運営している「プレイスメント・フォーラム」がある（プレゼミの授業で選ばれた学生達によって運営される）。既に5回、開催されている。

キャリア教育の発想は、求められる人材の育成にあり、就職内定率の高さをもたらしめている（内定率は、大学で約90%、短大で94%）。

インターンシップは、学園共通のシステムとなっており、6分野に分かれる（一般企業系、非営利系、メディア情報系、行政・財団系、観光系、海外）。大学生、短大生とも一緒に行っている（短大生は、1年次に行く）。中でもビジネスと行政・財団系には力を入れている。

インターンシップに行く学生は、2009年は220 - 230名であった（短大を含めて）。

短期大学のキャリア教育としては、1年後期のキャリア演習1、2年前期のキャリア演習2がある。

インターンシップの期間は、短期（2週間）、中期（1ヶ月）、長期（6ヶ月弱）の3つがある（短大は短期のみ）。行政・財団系に「ふるさとインターンシップ」があり、学生を地方に帰して受けさせる制度である（1年で10数名が受講）。スポーツ機関とのインターンシップを通じた提携もある。

本学は北海道出身者が学生の大半を占めており、卒業後はほとんどが札幌市など道内で就職することになる。北海道の企業としては、金融業、観光業への就職が多い（短大では、金融、販売）。

②担当組織

キャリア教育の担当は、「キャリア支援センター」が当たっており、その業務は課外講座、プレイスメント・フォーラム（卒業した先輩が講話をする）、資格取得支援である（職員のみで構成している）。2009年開始の制度として、卒業生への転職支援を実施している（必要な資金は同窓会が拠出する）。同窓会は、卒業生が全員加入。

それとは別に「キャリア支援部」があり、8学科から1名ずつの8名の教員で構成されている。学部のキャリア活動を担当している。

インターンシップは、その担当者の教員集団があり、そこで担当している。この集団は「キャリア支援プロジェクトチーム」を作って、キャリア教材（キャリア・ハンドブック）の作成、報告集作成なども実施している（この教材は、キャリア演習1・2で使用される）。

(2) 関西大学（大阪府吹田市）

①キャリア教育

キャリア教育プログラム（K-CEP）があり、就職支援、教職員のキャリア教育研修を行なっている（2006年に現代GPの研究助成を受けて、キャリア教育をそれまでの「キャリア支援V段階システム」を組み込み、さらに総合的なものにした）。大学の前、在学中、卒業後の発展段階と、学生の生育と共に、キャリア教育を進めるという考え方である（図2参照）。小中高等学校の教員を対象としたキャリア教育研修プログラム、卒業した学生（卒業生）を対象とした支援（キャリアセンター内に卒業生就業支援室がある）などは、特徴的である。卒業生のホームページなどはないが、在学生向けの就職情報システムがあり、卒業生が閲覧する部分がある（卒業生が職を得るための支援）。

図2 関西大学のキャリア教育 テーマ「学生一人一人の勤労観、職業観を育む」

<p>STEP I</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全入学生に「キャリアデザインハンドブック」配布 ・導入教育クラスでセミナー実施 ・1・2年次対象「キャリア・プランニング・セミナー」実施（課外講座） 	<p>大学の前に 大学とともに</p>	<p>○小中高校教員対象 キャリア教育研修プログラム（2005年～） 2009年～教員資格に組み込む</p>	<p>キャリア・カウンセリング キャリア教育プログラムに カウンセリング・サービスを 組み込む （専門のアドバイザー 7名が常時応談）</p>
<p>STEP II</p> <p>キャリアデザイン科目</p> <ul style="list-style-type: none"> I（働くこと） II（仕事の世界） III（私の仕事） 	<p>大学の後</p>	<p>○キャリア支援 V 段階システム</p> <ul style="list-style-type: none"> I キャリア教育の啓発 II キャリアデザイン科目 III インターンシップ 事前研修・実習 IV インターンシップ 事後研修 V 就職活動への誘い 	<p>STEP IV</p> <p>インターンシップ事後研修 出席を義務化 （欠席者はビデオで研修）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事後研修 I ・事後研修 II
<p>STEP III</p> <p>インターンシップ 事前研修・実習 （1997年～）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターンA・B ・国際インターン（米国） ・長期インターン ・プレ・インターンA・B （2年次対象） ・学外公募インターン ・学校インターン 	<p>大学の後に</p>	<p>○卒業生就職支援 卒業生も手厚く支援 生涯キャリア発達の視点 関西大学の教育貫徹 （2005年11月～）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアセンター内に 卒業生就業支援室を 開設。（㈱関西雇用創出 機構と提携（社内に関大 専用相談コーナーあり） ・専門カウンセラーによる キャリア・カウンセリング 	<p>STEP V</p> <p>就職活動への誘い 自己分析、業界企業研究 ビジネスマナー、情報収 集などを実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援プログラムの 多彩な展開 ・WEBでの情報提供 関大生のための 就職情報検索ツール KIPS （Kansai University Internet Placement System）

（出所）関西大学キャリアセンター資料

1、2年生対象の「キャリア・プランニング・セミナー」は、課外講座であるが、毎年5千名以上の学生が受講する。中にはオムニバス方式の講演も含まれる（4回くらいのリレー式の講義）。オムニバス方式の講演は、キャリア教育以外でも実施されている。

キャリア科目としては、「キャリアデザイン」Ⅰ・Ⅱ・Ⅲがある（各2単位）。2004年度より、インターファカルティ教育科目（学部横断型開設科目）として設けられた。Ⅰは1年次後期に実施される。ただ全学部共通ではなく、学部によっては卒業単位に加算する場合も、自由科目として、卒業単位に加算しない場合もある。キャリアデザインⅠでは、ライフキャリア、ワークキャリアに基づいて講義を受け、Ⅱは仕事の世界（職業）を学ぶ。Ⅲでは目標の仕事について、職業形成を考える（少人数のワークショップ形式）。

キャリア・ハンドブックは毎年更新され、入学時に学生全員に渡される。これを元にして、幾つかの学部では、教育の科目（1コマ）を作っている。

また、教育推進部という組織があり、その一部門でキャリアデザインのあり方を検討している。

キャリアセンター（2004年、元の就職部から設立）が実施しているインターンシップ（2単位）には、大きく分けて、「ビジネス・インターンシップ」と「学校インターンシップ」がある。双方合せて1年に約700名の学生が実習を行なう（海外もある）。夏期休暇の2-3週間の実習が多いが、半年間の長期インターンもある（1セメを丸々使用する長期は無い）。大学コンソーシアムの紹介は、一部利用の程度である。

国際インターンシップもあり、これは米国のミズーリ州とハワイ州で実施されている。ハワイ州ではハワイ大学コモディティ・カレッジで実際に即した勉強を実施している。観光関係の実習が多い。

事後研修（STEPⅣ）では、受入れ先企業・機関を招いて報告会を実施する。また、ワークシートを使って、インターンシップの内容を検討する。さらに大学のインターンシップについて、パネル・ディスカッションも開催し、学生を交えて討議を行なった。学生は以前インターンシップを行なった学生で、就職内定している人と呼んでいる。

大学院でも、同じ仕組みでインターンシップを実施しており、また博士後期課程では、産業界との協力による高度なインターンシップを実施している。

②担当組織

キャリアセンターが総括的にキャリア教育支援に取り組んでいる。中にはセンター所長の他、事務局長（職員）、各学部1名（10名）の主事（キャリアデザイン担当主事）がいて、キャリアデザインルームで個別指導（キャリア・カウンセリング）を行なう。キャリアデザインルームは、2001年から設置された。センターの職員は、約20名である。

資格取得は、キャリアセンターの参加組織である「エクステンション・リードセンター」があり、各種の国家資格や認定の講座を開催している（簿記、通関士、旅行業務など）。

(3) 近畿大学（東大阪市）

①キャリア教育

近畿大学では、学部のキャリア科目「キャリアデザイン」がある。2009年度から、この各学部でしてきたものをまとめて、「マイ・キャンパス・プラン」として、全学（11学部）でまとめて実施する予定である。「キャリアデザイン1」は、1年次向けの科目となっている。

一方、キャリアセンターがしているのは、インターンシップ（一部のみ）、就職ガイダンスであり、講義を受け持つことはしない（キャリアセンターのキャリアサポート・プログラムは、図3を参照）。

インターンシップは、学部も実施しているが、学部によって異なっており、単位認定される学部では2単位となっている（単位認定しない学部もある）。

図3. 近畿大学キャリアセンターのキャリア支援

4年間のキャリアサポートプログラム					
1 年 次	5月	新入生キャリアガイダンス 公務研究会	3 年 次	9月	第2回就職ガイダンス
	10月	就職セミナー 業界研究会		10月	就職セミナー 業界研究会 就職適性検査
	11月	公務研究会		11月	公務研究会 就職相談フェア
				12月	第3回就職ガイダンス SPI2 総合対策 内定者セミナー
2 年 次	4月	国際インターンシップガイダンス キャリアインターンシップガイダンス	4 年 次	1月	第4回就職ガイダンス 金融/IT 業界ガイダンス 模擬面接
	5月	公務研究会		2月	企業研究会 学内合同企業セミナー
	6月	2年生キャリアガイダンス		4月	学内合同企業セミナー
	7月	自己プロGRESSレポート		5月	模擬面接
	10月	就職セミナー 業界研究会		6月	公務研究会 学内合同企業セミナー
11月	公務研究会	8月	学内合同企業セミナー		
3 年 次	4月	国際インターンシップガイダンス キャリアインターンシップガイダンス	11月	学内合同企業セミナー	
	5月	第1回就職ガイダンス 公務研究会	1月	学内合同企業セミナー	
	6月	就職相談フェア			
	7月	就職実践模試			

キャリア支援

就職支援

(出所) 近畿大学経営学部「学部案内2009」、40ページ

キャリアセンターのインターンシップは、「キャリア・インターンシップ」、「国際インターンシップ」、「パブリック・インターンシップ」がある。1年次から参加でき、短大生、大学院生も加わる。3タイプともキャリアセンターが受け付け、選考を行なって派遣するもので、主に夏期休暇中に実施される。キャリア・インターンシップは2週間程度の期間で実施しており、単位認定を原則として行なわない。国際インターンシップは、オーストラリア、カナダなどの企業・団体で実習するも

のである（オーストラリア2週間、カナダ4週間）。海外の学校でのインターンもある。パブリック・インターンシップは、都道府県の経営者協会、商工会議所などの機関が実施するもので、その所属企業・団体で実習を行なう。官公庁のインターンもある。2008年のキャリアセンターのインターンシップ参加者は、学部生、大学院生、短大生を合計して、計923名であった。

インターンシップは、事前よりも事後の勉強に力を入れているのが特徴である。2009年度から、前に実習に行った学生による後輩（後で同じ企業・機関に行く人）の指導を実施する（1回だけ実施）。

学部のキャリア教育は、インターンシップをまず創設し、キャリアデザインを別に科目として作っている。キャリアデザインでは、オムニバス方式で、企業の経営者、中間管理職の人の話を聞く。学部では、水曜日3・4時限をアSEMBリー・アワーとしており、授業を入れないで、キャリア関係の時間としている（経営学部では最もよく使用している）。

卒業生との繋がりを作る活動は、キャリア関係ではまだしていない。

経営学部では、それまでの経営学科のキャリア・マネジメントコースを発展させて、「キャリア・マネジメント学科」を2007年度に新設している。ここでは、キャリアを高め、戦略的人材マネジメントの専門家を養成することを実施している。

大学院生による高度なインターンシップについては、何件か実施している。1ヶ月単位のものが多く、理工系を中心に実施している（教員の紹介によるものが多い）。

②担当組織

キャリアセンターにはキャリア支援課（就職・キャリアの相談、カウンセリングを担当）、キャリア開発課（課外講座、資格試験への研修を担当）がある。センターには2名の教員がおり、センター長（英語の教員）、もう1名の教員（語学担当の外国人）がいる。近大は語学教育に熱心であり、その関係がある。センター長は学部にも所属している。

学部のキャリア教育組織は、スタート時期がそれぞれ異なり、キャリアを担当するのは就職委員会、インターンシップ委員会である。全学での就職委員会は、年4回、全学でのインターンシップ委員会は、年2回、開催される。

学部のキャリア指導としては、例えば経営学部には、「キャリアサポート・オフィス」があり、専任スタッフが常駐して、進路や学習について、要望に応じて、指導を行なっている。またキャリアアップ・サポート講座（課外講座）があり、経営学部独自に「販売士養成講座」、「特殊講義 通関業務論Ⅰ・Ⅱ」（単位認定）、TOEIC・TOEFL講習会、公務員試験対策講座などが設けられている。キャリアアップ・サポート講座には、寄付講座、特別講座があり、例えば主要銀行の経営幹部のリレー講座である「銀行講座」、「証券講座」、「ビジネス最前線講座」、外交官から世界情勢について学ぶ「外交講座」などが設けられている。

経営学部のインターンシップ（選択科目）としては、ビジネス・インターンシップⅠ・Ⅱ、アドバンスト・インターンシップがあり、各2単位である（計6単位を取得可能）。

インターンに行く学生は、2007年夏期で184名であった（春期休暇は、キャリアセンターのみでしている）。2年生以上でインターンに行くこととなっている（2年次秋学期に科目を設置）。Ⅰは前期+夏期休暇、Ⅱは後期である。

なお、近畿大学は、シーズとニーズの接合を行ない、特許管理を実施するリエゾンセンター（KLC）が著名であり、2000年にセンターを設立している。大学の特許は、医学部、薬学部、農学部の保有が多い。

(4) 帝塚山大学（奈良市）

①キャリア教育

帝塚山大学は、2つのキャンパス（東生駒、学園前）があるが、それを通して、キャリア支援活動を実施している。本学はかつて女子大であったが、1989年から男子学生を入学させている。

まず「インターンシップ」を開始し、その後、2001年に就職部からキャリアセンターを創設して、科目「キャリアデザイン」を実施している。

図4は、帝塚山大学のキャリア支援科目で、「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」、「インターンシップⅠ・Ⅱ」は単位が修得できる。その他のキャリア支援科目は、単位が付かない。

図4. 帝塚山大学キャリアセンターのキャリア支援

		1年生	2年生	3年生	4年生
キャリア支援プログラム		キャリアデザインⅠ			
			キャリアデザインⅡ		
		インターンシップⅠ	インターンシップⅠ	インターンシップⅠ	
			インターンシップⅡ	インターンシップⅡ	
		エクステンション講座	エクステンション講座	エクステンション講座	エクステンション講座
		特別資格サポート制度	特別資格サポート制度	特別資格サポート制度	特別資格サポート制度
		各種適性検査	各種適性検査	各種適性検査	就職模擬テスト (適性・SPI・一般常識)
		就職講演会	就職基礎講座 (ガイダンス)	就職対策講座 (オープンガイダンス・マナー講座)	就職フォロー講座 (未内定対策)
				自己開発ゼミナール	
				就職活動 冊子配布	業界・企業 研究講座
					帝塚山モバイルネット ワーク
				学生就職 アドバイザー	就職カウンセリング
					オンキャンパス リクルーティング

(出所) 帝塚山大学キャリアセンター資料

インターンシップⅠは事前講義（1年次から）で、Ⅱ（2年次から）で学外に出掛けることになる。インターンシップⅠをする学生は、両キャンパスを合わせて600名であるが、Ⅱに進んで、実際に実習をするのは、150名程度である。そのうち約40%は、奈良県大学連合会の関係で、県内で実習している。期間は原則2週間以上で、学部生は計80時間、大学院生は180時間を実習させる（大

大学院生は博士前期課程の学生で、年に約10名が実習する。

また海外インターンシップもあって、海外の日系企業で英語を使って実習する。当初は14名が、その後は2007年には8名が実習しているが、その後はほとんど無くなっている。ただ英語文化学科（人文科学部）は、海外インターンを中止していない。

これは、教員の中で、立命館大学の海外インターンをした経験の人、海外で勤務した経験のある人が紹介し、また旅行会社の仲介もあってスタートした制度である。実施していた時は、夏期休暇において海外留学経験のある教員が随行し、2週間、米国の大学で英会話を勉強した後、2週間以上の実習を行っていた（計4週間）。

大学院生には、高度人材のインターンシップ（コンピテンシーの関係）にも参加させている（高度人材育成でGPを受けた）。その参加者は、延べ15－6名である。

キャリアデザインは、Iを受けた後で、単位を取れた者にIIを受講させる。毎回、レポートを書かせて、出席点を取る。受講生の数によって、開講の時限や講師の数を調節する。

卒業生の講話は、以前は社会に出た卒業生を呼んでいたが、最近あまり実施していない。

資格取得（エクステンション）は、学部の科目になっており、中小企業診断士、社会保険労務士など学部の単位となる（最近は受験生が減っている）。2001年から、入っている。

②担当組織

キャリアセンターは、教員3名、事務員8名から構成されている。学生支援センターの組織の一つとなっている。センターの教員は、学部には所属していない（センター専属）。自己開発のセミナーには定年で企業をリタイアした人を教員にお願いしている。

各学部にはキャリア委員会があり、6学部から計12名のキャリア委員が出て、委員会を作っている（1学科から1名ずつ。但し、現代生活学部は2学科であるが3名）。キャリア委員会は、副学長が委員長を務め、学部のキャリア委員、キャリアセンターの教員・職員、学生支援センター次長・課長で構成されている。月1回の開催で、カリキュラム、担当分野の話をしている。

インターンシップ委員会は存在せず、キャリア委員が各企業に行って、インターンシップの打合せを行なう。キャリア委員の「インターンシップ担当」の分担はある（5名ほど）。インターンシップへ学生が行くときに、各学科でキャリア委員が面接を行なう。

(5) 甲南大学（兵庫県神戸市）

①キャリア教育

甲南大学のキャリアセンター（2004年設立）は、センター長は教員で、副長はキャリアセンター専任である。あと、課長補佐2名、スタッフ4名、職員で非常勤講師を兼ねる人が1名いる。センター長は、学長会議のメンバーになっている。

キャリアセンターのキャリア科目として、「ベーシック・キャリアデザイン」、「インターンシップ・ボランティア」、「キャリアゼミ科目」、「プラクティカル・キャリアデザイン科目」、「アドバンスト・キャリアデザイン科目」の5つがある。これらのうち、インターンシップだけは、全学部で単位修得ができるようになったが、他の科目は学部によって、単位になるところとならないところがある。

これらは専門教育科目になっており、それとは別にセンターのサポート・プログラムがある（キャリアセンターの活動は、表を参照）。中にはキャリアアップ（資格）講座もあり、これはキャリアセンターと生協の協力で実施している。2006年度に文科省の現代GPに本学のキャリア教育への取り組みが選ばれて、それ以来、「実践的総合キャリア教育」として推進されている。

表 甲南大学におけるキャリアセンターのプログラム

1年次 自己発見（なりたい自分を探す）4年間の学習計画と将来への目標を設定	
<p>＜専門教育科目＞ ベーシック・キャリアデザイン インターンシップ・ボランティア ＜サポートプログラム＞ ハレ晴れセミナー スマイリーセミナー</p>	<p>（サポートプログラム続く） 適性検査「職業レディネス・テスト」 インターンシップ報告会・事前講座・事後研修 ボランティア事前講座・事後研修 文学部/理工系学生のためのキャリア支援講座 キャリアアップ（資格）講座</p>
2年次 進路選択（自分を高める）進路実現に向けての知識・能力を取得	
<p>＜専門教育科目＞ キャリアゼミ インターンシップ・ボランティア ＜サポートプログラム＞ スマイリーセミナー 適性検査「VPI 職業興味検査」</p>	<p>（サポートプログラム続く） お仕事探検隊 インターンシップ報告会・事前講座・事後研修 ボランティア事前講座・事後研修 文学部/理工系学生のためのキャリア支援講座 キャリアアップ（資格）講座</p>
3年次 進路活動準備（自ら動く）自分にあった進路を選択	
<p>＜専門教育科目＞ プラクティカル・キャリアデザイン インターンシップ・ボランティア ＜サポートプログラム＞ 就職ガイダンス インターンシップ報告会・事前講座 ・事後研修 ボランティア事前講座・事後研修 自己分析講座&ワーク コミュニケーション力をアップする （ワーク） エントリーシート対策講座&ワーク 筆記試験対策講座 SPI 模擬試験&フォロー講座</p>	<p>（サポートプログラム続く） グループワーク・グループディスカッション 対策講座 面接実践講座 面接マナー講座 センスアップ講座 インターネットを使った就職活動講座 適性検査「キャリアアプローチ」&フォロー 講座 女子学生合宿セミナー 業界研究講座 企業分析講座 企業研究セミナー 企業研究講座 in Tokyo OB・OG 懇談会 文学部/理工系学生のためのキャリア支援講座 キャリアアップ（資格）講座</p>
4年次 進路決定（社会へ漕ぎ出す）自己実現への具体的な活動	
<p>＜専門教育科目＞ アドバンスト・キャリアデザイン インターンシップ・ボランティア ＜サポートプログラム＞ エントリーシート・履歴書個別相談</p>	<p>（サポートプログラム続く） 4年次向けフォローアップガイダンス& 学内企業合同セミナー 就職活動中の諸問題への適切なアドバイス 内定獲得者のフォロー キャリアアップ（資格）講座</p>

（出所）甲南大学「甲南大学キャリアセンター」、2008年3月、1ページ

ベーシック・キャリアデザインでは、1年次を対象に、社会生活に必要な教養を「4つの知恵」として、「雑談&情報交換ペアワーク」、「コミュニケーションゲーム」、「グループディスカッション」、「プレゼンテーション」などの人間関係を柱としたトレーニングを講義の中で行なう。外とのコミュニケーションを作り、発表することが狙いである（外部講師、OB/OGの招聘もある）。外部講師の招聘は、学生の希望を聞いて、決定する。なお、ベーシック・キャリアデザインなどは、経済学部、経営学部では卒業単位に入るが、文学部、法学部、理工学部では卒業単位に入らない（単位に入らない学部では、履修しなくてもよい）。単位に入る場合も、これらのキャリア科目は全て選択科目である。

インターンシップ・ボランティアは、在学中に企業、団体、地域社会で社会体験、就労体験を行なうもので、1995年度から経営学部で実施していた「オフ・キャンパス・アクティビティ」（単位あり）を元にして、実施している。インターンシップ・ボランティアは、1年次から受けられるが、企業の要望で、3年次以上とされている場合が多い。期間は多くの場合、1－2週間である（4ヶ月の長期インターンシップの経験もある）。夏期・春期休暇で実施している。ボランティアについては、国際交流センターが協力する。

インターンシップ受入れ先は、全て大学から依頼しており、近畿の経営者協会とは関係を持っている（インターンシップ推進協会との関係は特に無い）。企業は、先輩所在の企業を中心に、神戸、大阪を中心としている（学生は、この両府県の出身者が大部分である）。

キャリアゼミは、少人数で実施するゼミでチームワーク、コミュニケーションスキルの養成を図るもので、2年次で実施される。提携先の企業・団体に出向いて行なう「ジョブ・シャドウイング」、「企業人インタビュー」が含まれる。経済学部、経営学部の学生は、16名1クラスとして、4クラス64名が履修している。

3年から実施されるプラクティカル・キャリアデザインは、自己の能力に適した進路を選択して、進路決定のプロセスについて学ぶものである。製品開発から販売までのビジネス・プロセス、経営課題の解決プロセス、企業設立プロセスを模擬的に学習する。センターの非常勤の教員と法学部のキャリア・コンサルタントの教員が担当している。

アドバンスト・キャリアデザインは4年次に対して実施されるが、広く社会で活躍した人と呼んで、講義をしてもらう（オムニバス方式）。

キャリアセンターの専門教育科目は、経済学部、経営学部では学生の50%が履修しており、3・4年次では20%程度（160名）である。他学部では、履修者は少なく、文学部で10%強位である。

キャリアセンターの専門教育科目とは別に、学部ごとに単位の取得できるキャリア科目がある。法学部では、キャリアセンターの入らないキャリアゼミがある。

②担当組織

キャリアセンターとは別に、学部ごとにキャリアセンター委員1名がいて（工学部では、学科ごとに委員1名）、キャリアセンター委員会を構成する。委員会の中には、地域専攻（旧一般教養）の教員や教育研究所（体育）の教員も加わっている。

卒業生とのコネクションを行なう組織として、同窓会があり、そこでシンポジウムを実施している。また、東京で働く卒業生との間のコーナン・ネットワークがあり、交流をしている。

リメディアル教育は、各学部で実施している。

5. まとめ

各大学の特徴を検討して、前回2004年調査以降のキャリア教育の発達ぶりが分かり、またこれからのキャリア教育の一層の進展への必要性が感じられた。特徴ある方式（制度）として、以下のものが挙げられる。大学名は、例えば、として挙げている。

- (1) 全学的なキャリア教育（特にキャリアデザインとインターンシップ）－ 各大学
- (2) 教員と職員を一体化したキャリアセンター組織 － 帝塚山大学、甲南大学
- (3) 入学前・在学中・卒業後をまとめたキャリア教育 － 関西大学
- (4) キャリアセンターのキャリア教育と各学部のキャリア教育の並行実施 － 北海道大学、近畿大学
- (5) 海外インターンシップ － 関西大学、近畿大学
- (6) 「大学と社会」の繋がり重視 － 北海道大学
- (7) 2年次からのインターンシップ － 各大学 / 1年次から － 北海道大学、近畿大学、甲南大学
- (8) キャリア支援センターの他に、キャリア支援部、キャリア支援プロジェクトチームが存在 － 札幌国際大学
- (9) キャリアデザイン科目の多様化 － 甲南大学

最後に、今回のインタビュー調査にご協力を賜った各大学の担当者および研究者各位に厚く御礼を申し上げる次第である。公表をすることを許された内容について、まとめることができたのは、各大学インタビュー先の方々のご好意によるものである。

以上